

編集後記

留学生日本語教育センターでの教育に関わるさまざまな論考が揃いました。それぞれの教員がより良い教育をめざして、日々どんなことを行っているかがよく表れた号になったのではないかと思います。(O.T)

投稿された論稿を拝読し、多様な切り口からの留学生日本語教育に関わる問題や状況を知ることができました。自分の専門とは異なる分野であっても学ぶべき点が多くあることを、改めて感じました。(S.Y)

日本語研究、日本語教育学研究、日本語文学・文化研究、日本社会研究。この四領域の間で、いかに有機的な連携を図るか。今後、国際日本学研究院が問われつづける課題ですが、本論集には、それについて考える際のヒントが詰まっているのではないのでしょうか。(H.N)

今回の論集の特徴は、報告や研究ノートが多いことでしょうか。留学生日本語教育センターの多様な教育のあり方を反映しているように思います。個人的には、研究ノートを読むのが好きです。隙のない完成された論文に比べ、「宝探し」のような楽しさがあるからです。(K.H.)

久々に論集委員になったと思ったら論集委員長を拝命し、いろいろとゴタゴタがあったが、無事に本年度も予定通りセンター論集を出すことができた。皆さまのご協力に感謝する。本年度号は論文4本、研究ノート7本、報告7本の計18本の論稿を掲載している。当誌のような紀要は査読付きの学術ジャーナルと比べて低くみられがちだが、既存の考えにとらわれない自由な発想で書けるところに価値があると思う。その意味で論文や研究ノートがもっと増えることを望む。(T.K)

本年度論集委員

楠本徹也 大津友美 金子比呂子 清水由貴子 春名展生

東京外国語大学留学生日本語教育センター論集 第42号

2016年3月31日

発行者 東京外国語大学留学生日本語教育センター

代表者 伊 東 祐 郎

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

電 話 042-330-5760